

## 第5回定例会報告

12月12日(月)に行われた定例会の報告をいたします。

18名参加していただき2部構成で行われ、第1部として11月に開催された全国大会の報告、第2部として14条の地図整備事業とその直近になされた地積更正の成果との比較検討を行いました。

第1部全国大会の報告について大まかに記します。

遊歩規定測量の研究の様子が非常に楽しそうだった。

役割の関係で話を聞けなかったので講師を呼んでもう一度講演してもらいたい。

明治初期の測量であるのに精度が非常に良いのに驚いた。

東学寺住職の講演

肩肘張った内容ではなく飽きさせない話で良かったが、耳が痛い話もあった。

司会者をいじるなど気さくな人だった。

小泉代議士の講演

手元を見ずに時間も完璧に終わらせたので政治家とは話のプロであると再認識した。

そのためには自分の声を録音するなど努力の賜物であるので、土地家屋調査士としてもっと練習が必要だと感じた。

分科会「大規模災害で私たちに何ができるか」

被災してから2,3日経つと物資より資金のほうが役に立つとのこと。

ブルーシートが非常に役に立つとのこと。

物資や資金は被災地よりその隣接する被災していない地域で対応するのがスムーズに支援できるとのこと。

「人として何ができるか」と「土地家屋調査士として何ができるか」との観点から意見が多くでたとのこと。

被災について現実感がなかったが、実際に経験した熊本会の方の話を直に聞いて、その切実さや情報の大切さを再認識しました。また情報の重要性について考えさせられました。

災害時に情報を書き込めるSNSがあったらよいかも。また、被災を認識することで自分たちの普段行っている防災訓練も自分の中で再評価することができました。

分科会で出た意見を集約して後日報告がなされる予定とのこと。

その他

テーマをもう少し絞ればよかった。

愛知では地上権など登記の新しい解釈を検討しているとのこと。

## 第2部について

14条の地図整備事業によって直近の地積更正の成果と比較して約1万㎡の土地に約7㎡の面積の差が出たので、提供した資料を基に各自気づいた点や考えられる原因などを検討しました。

地積更正の成果に不備が散見され、もっと過去の資料などから検討も行いましたが、最大の要素として地積更正の時の基準点観測が原因であろうという話になりました。

全体で大まかな角度のひねりがあるので、放射のみか単純な閉合のみの任意基準点観測であり公共基準点から結合などされたものでないためであろうという結論になりました。

土地家屋調査士業務は一筆地の狭い範囲の測量が多いので、広大な土地を測量する場合の怖さが判明したと思います。

14条地図整備事業は一人ではできない広大な土地に対して基準点網を組んで測量していくことを実施していくので、歪みの無い成果が得られるのでその経験を今年度から来年度にかけて千葉市中央区弁天地区にて青調会の会員が主体となって事業を受注しているので、この機会にぜひとも参加して経験を積んでいただけたらと思います。

## おまけ

12月26日に忘年会を行いました。

疑問解消のため熱い議論が交わされて楽しく充実した時間が過ごせました。受身で研修を受けるだけでなく、積極的に青調会を利用してもらえて良かったと思いました。

今年1年ありがとうございました。来年もよろしく申し上げます。